



石の寺 ^{きょうりんぼう} 教林坊の境内を彩る

「教林坊のモミジ」の後継樹が里帰り

^{りんぼく} ー 林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

西暦 605 年に聖徳太子によって創建されたと伝えられている寺院「教林坊」（滋賀県近江八幡市）の境内に生育していたイロハモミジの後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 ^{りんぼく} 林木育種センター関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場（岡山県勝田郡勝央町）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、滋賀県近江八幡市の教林坊から増殖の要請を受けた「教林坊のモミジ」（イロハモミジ）の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

- 里帰り日時 令和5年10月30日（月）11時00分ごろ
- 里帰りする場所 教林坊（滋賀県近江八幡市安土町石寺 1145）
- 里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 3本

問い合わせ先

○国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター
関西育種場（平日 8:30～17:15）

事業責任者：遺伝資源管理課 課長	たけだ のぶあき 竹田 宣明		
担当者： 収集管理係長	うえの よしと 上野 義人	係員	たけなか たくま 竹中 拓馬
広報担当者：連絡調整課 課長	ふじた あきひろ 藤田 彰宏	係長	はやし かつひろ 林 勝洋

Tel : 0868-38-5138 Fax : 0868-38-5139

本資料は、滋賀県政記者クラブ、近江八幡市に配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。一方で、樹木の中には衰弱しているものもあり、後継樹を増殖することが求められていました。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱している樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 326 件の要請があり、248 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 4 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする「教林坊のモミジ」は、滋賀県近江八幡市の「教林坊」に所在する、樹高約 6 m、樹齢約 100 年のイロハモミジです。教林坊は、西暦 605 年に聖徳太子によって創建されたと伝えられる歴史ある寺院であり、「石の寺」とも呼ばれています。「教林坊のモミジ」は、その境内に植栽されたもので、毎年、秋の紅葉シーズンにはライトアップされ、紅葉の名所として地域の人々から大変親しまれています。

しかしながら、近年、「教林坊のモミジ」の 1 本が根腐れにより、樹勢が非常に衰えていました。（現在は枯死）

このことから、教林坊から関西育種場に対し、「教林坊のモミジ」の後継樹の増殖依頼がありました。令和元年 10 月に関西育種場職員が現地で 7 本の枝を採取し、その枝をもとに、同年 10 月に 13 本をつぎ木した結果 1 本が成功しました。令和 4 年の 1 月にその苗木からさらに増殖用の枝を採取し、同年 3 月につぎ木したところ 9 本の苗木増殖に成功しました。その後苗木は順調に生育し、屋外に植栽しても生育できる見込みとなったことから、このうち 3 本が、この度、教林坊に里帰りすることになりました。

図、表、写真等



「教林坊のモミジ」の親木からつぎ木増殖用の枝を採取する様子



里帰りする後継樹